

水危機から考える日本の食糧問題

ユニセフ

基礎講座

第38回



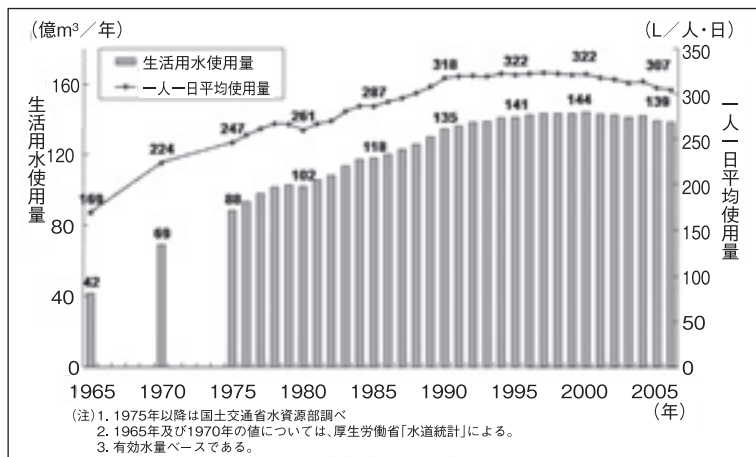
©UNICEF/NYHQ2009-0644/Kamber
水を入れた容器を運ぶ遊牧民の男の子。
ソマリアのガルグドワード中央部では、
ほとんどの水場が干ばつのため干上がってしまった。

降水量に恵まれた日本では、幸いなことに水不足に陥ることも少なく、安全で質の高い水を摂取しています。一方、開発途上国では、慢性的な水不足、高い水道料金の負担、国内での使用可能な水量における格差など、水の問題に常に悩まされています。世界的な水危機を迎えようとしている近年、開発途上国では欧州企業による独占的な水道事業の民営化が加速し、水ビジネスをめぐる動きも活発になってきています。世界で起きている水の問題と日本も無縁ではありません。穀物の栽培や生産には大量の水を必要とするため、水不足が起きれば、食糧危機をまねくことになります。世界的な水の危機によって、日本でも今と同じ生活を送ることは難しくなるかもしれないのです。

世界の水を大量に使う日本

日本人の水の消費量は、40年前に比べるとおよそ2倍に増えました。(【図1】参照) 私たちが日常生活で使用する水以外に、食料や衣類などさまざまな日用品の生産過程でもたくさんの水が使われています。現在、日本の食料自給率は約40%で、残りの約60%は海外に依存しています。それは同時に、海外から多くの水を輸入しているということにもなります。その間接的に輸入している水はバーチャルウォーター(仮想水)と呼ばれます。ロンドン大学教授のトニー・アラン氏が提唱したこの考え方によると、日本は年間約640億 m^3 の水を海外から輸入しており(【図2参照】)、これは日本人1億2,000万人が使用する5年間分の水に値します。この計算では、牛丼一杯に約1,890 l 、ハンバーガー1個に約1,000 l の水が使われていることとなります。日本の食生活は、海外からの水によって大きく支えられていると同時に、世界の水問題は日本の食糧問題でもあるのです。

【図1】日本人の生活用水使用量の推移

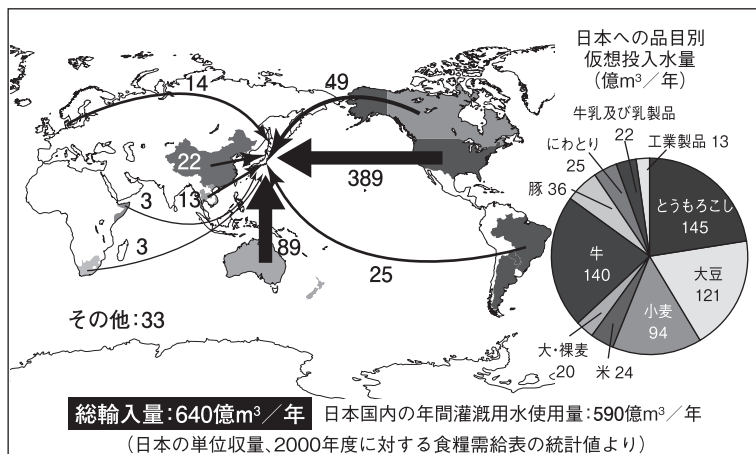


出典：国土交通省ウェブサイト 図-生活用水使用量の推移より作成

食生活から世界の水問題を考える

日本の食生活の変化は、水の輸入量にも大きく関係しています。パンや肉、乳製品など、輸入に頼る食品の消費が増えたため、それらの生産に要する水も大量に使っています。どれだけの膨大な見えない水によって私たちの生活が成り立っているのかを意識することが大切です。また、日本は食糧を大量に輸入しながらも、大量に廃棄している国です。国産のものを育成するように奨励すること、食べ物の無駄をなくすようにすることは、私たち日本人が心がけるべきことです。飢餓に苦しむ人々が約10億人いる現在、私たちは水を大量に消費する先進国として、果たさなければならない責任があるのではないのでしょうか。

【図2】日本の仮想投入水総輸入量



出典：東京大学生産技術研究所 沖大幹教授ウェブサイト 図-日本の仮想投入水総輸入量より作成

【参考資料】

- ・東京大学生産技術研究所 沖大幹教授ウェブサイト「世界の水危機 日本の水問題」
- ・国土交通省 土地・水資源局 水資源部ウェブサイト
- ・環境省ウェブサイト「Virtual Water」